

## 動詞の否定中止形ナクの使用状況と成立背景

船 木 礼 子 (橋本礼子)

### 1. 動詞の否定中止形のゆれ

日本語の動詞の否定中止形は、「～行かず」、「～行かなくて、」のように、ズ、ナクテ、ナイデ、ズニが併用されており、用法や出現環境に重なりや違いがある。また、書きことば的なズと話しことば的なナクテ・ナイデのようにスタイルの違いも存在する。このような複数の動詞否定中止形の存在は「ゆれ」を生み、さらに部分体系の変化も生み出す引き金になると考えられる。

その引き金によって生み出されたと考えられるのが、例(1)～(4)に挙げるような、動詞の否定中止形ナクである。(1)は漫画のナレーション部分、(2)は新聞記事、(3)は新書、(4)は街で見かけた業務用のテプラシールである。

- (1) 最近では本名を知る者は**ほば**いなく恐れられる毎日

(『君に届け』第1巻、2006年、集英社(マーガレットコミックス))

- (2) 記者会見を開いた三条地域振興局の岡田伸夫局長は「全職員に飲酒運転根絶を再度徹底した。非常に信じられなく、残念。申し訳ない」と頭を下げた。

(朝日新聞、2011年12月10日 朝刊(新潟)29頁)

- (3) おそろおそろアクセスした新入会員には何のことだ**か**分からなく、目を白黒させただろう。(井上章一他編『性的なことば』講談社現代新書、2010年、387頁)

- (4) I S S 使用時ギヤーが**入らなく**走行出来ない時はキー S / W で E / G を止め再度 E / G を掛け直して下さい

(神戸市バスの一部の運転席に貼られたテプラシール、2009年5月頃から現在に至る)

この現象については、早くも金澤(1997)がその存在を指摘して「なく中止形」と名付けている。金澤(1997、2008)が新聞や書籍、レポートなどから得た17用例を挙げて指摘した「なく中止形」の傾向は、次の二つである。金澤のこの指摘は、先に挙げた例(1)(2)(3)や筆者が日頃目にする用例にもほぼ当てはまる。

- 1 「いる」「できる」「～ている」「～られる」のように、動詞(句)が状態的な意味を表す場合が少なくない(金澤のA～E)

- 2 「～にすぎない」、「～でも構わない」のように、対応する肯定形を持たない動詞（句）の用例がある（金澤のF）

また金澤（2008）は、1996年と2005年の大学生を対象としたアンケート調査から、従来は誤用あるいは不自然とされたこの新しい「なく中止形」が2005年の時点で若年層には確実に増えていることを示している。

ただし筆者は、レポートや作文、仕事で使用する文書やメールといった文体的に書きことばを志向しているもの、あるいはゼミ発表や会議における改まったスタイルの発言においてはこの動詞否定中止形ナクを見聞きするが、日常的な会話の中では滅多にこの新しい形を聞くことがない。このことから考えるに、動詞の否定中止形ナクにはスタイルの問題が絡んでいるのではないだろうか。

本稿では、動詞の否定中止形ナクが浸透するきっかけとなっている要素について、特に動詞否定中止形ナクの意味的特徴とスタイル的特徴から考えてみたい。

## 2．全国共通語における動詞否定中止形の整理

まず現代の全国共通語において規範的とされている動詞の否定中止形について、形態と意味の面でそれぞれ整理しておきたい。

### 2-1 形態面での整理 動詞否定形ナク

動詞の否定中止形がなぜナクの形をとるようになったのか。このことを考えるために、形容詞の「ない」、形容詞否定形、動詞否定形を、特に用言にかかる「連用形」、何も後接せず従属節を形成する「中止形」、テが後接した「テ形」に細かく分けて整理したものが表1である。表1では、終止形と連体形は働きは違うが形の上で同じなので一つにまとめ、命令形はいずれの形式にもないので省く。また意志推量形のナカロウは学校文法の口語文法表の「未然形」に挙げられているもので、やや古めかしい感があり、特に動詞の場合は現代の全国共通語としては許容しづらいが、形容詞「ない」、形容詞否定形、動詞否定形で共通した形があることを見るために残しておく。

表1 否定形式の形態

	意志推量形	連用形	中止形	テ形	終止連体形	仮定
形容詞「ない」	ナカロウ	ナク ナカッ	ナク	ナクテ	ナイ	ナケレバ
形容詞否定形	-ナカロウ	-ナク -ナカッ	-ナク	-ナクテ	-ナイ	-ナケレバ
動詞否定形	-ナカロウ	-ナク -ナカッ		-ナクテ -ナイデ	-ナイ	-ナケレバ
		-ズ -ズニ	-ズ -ズニ			-ネバ

表1から分かるのは、次の四点である。

1. 動詞否定中止形には、形容詞「ない」や形容詞否定形にはあるナクがない。
2. 動詞否定形の連用形と中止形には、形容詞「ない」や形容詞否定形にはないズがある。
3. 動詞否定形のズは意志推量形、テ形、終止連体形がない。
4. 動詞否定形のテ形には、形容詞「ない」や形容詞否定形にはないナイデ<sup>注2</sup>がある。

形容詞「ない」と形容詞否定形と動詞否定形は多くの形式を共有しているが、連用形・中止形・テ形で形式の違いが顕著である。中止形に注目すると、動詞否定形は他の活用形では形容詞「ない」や形容詞否定形と共通する形式を持つのに、動詞否定形の中止形にはズとズニしかなく、ナクが使われない。つまり形容詞型の否定形式を他の活用形には持ちながら中止形にはそれが欠如している。このことが、動詞の否定中止形にナクを求める体系的な要因だといえる。

ただし、動詞の否定中止形にはナクの代わりにズがあるのに、なぜナクが求められるのか。これにはズの衰退が関わっているだろう。古典語の又系統の形式(表1の点線より下の部分)は、現在の全国共通語としては連用形と中止形、仮定形にあるのみで、それも主に書きことば的な、フォーマルなスタイルのものとして使われている。古典語であれば終止連体形にも「ヌ／ン」があったが、今は既に全国共通語の否定形式の終止連体形は書きことばでもナイにその座を奪われている。次に狙われているのが中止形だということになるうか。

こうしてみると、動詞否定形は、中止形にナクが欠けているだけでなく、形容詞「ない」や形容詞否定形に比べてバリエーションが多い。このことは、動詞否定形だけが複数の中止形・テ形を意味をずらして共存させていることを示唆する。

## 2-2 従属節と主節の意味関係による動詞否定中止形の整理

前節で、動詞の否定連用・中止・テ形にはバリエーションが多いことから細かな意味の使い分けがある可能性について述べたが、特にナクテとナイデ、ズニなどの用法の違いについては日高(1995)が詳しくまとめている。

日高(1995)はテ形の主節に対する従属関係の違いと前件・後件の時間的な意味関係の違い(節の用法の場合)から、テ形の用法を次のように分けている。(日高1995、474頁(Ⅰ))

《1》テ形接続補助用言用法

《2》従属的用法：付帯状況(前件・後件が時間的同時性を持つもの)

従属的用法：因果関係(前件・後件が、時間的継起性を持つもの)

《3》並列的用法：対比(前件・後件に、時間的な関連のないもの)

このうち、《1》の「行かないでいい」、「行かないでほしい」、「行かずにすむ」、「行かず

にはいられない」などの動詞のテ形接続の補助用言用法(連用形)は、テ形やズニの意味・機能を考える上で重要だが、本稿の考察の中心が中止節にあるため、ここでは扱わない。

日高(1995)は《2》従属節用法や《3》並列的用法についての詳しい分析をもとに、次の特徴を指摘している。

まず《2》従属的用法のうち付帯状況のものは、従属度が高く、対比の解釈を除いては前件と後件の動作主が同一で、動詞が共に意志動詞の場合は付帯状況の読みしか生じないもので、ナイデ、ズニが適格である(\*ナクテ)。《2》従属的用法の因果関係のものはナクテが適切で、ナイデも可(原因・理由の意味ではナイデはやや不自然)である(\*ズニ)。《3》並列的用法は前件の後件に対する従属度が低い等位接続構文で、動詞のタイプの制約もなく、前件、後件は何等かの同質性を持つ事態  $S_1$ 、 $S_2$  と捉え得るものであれば何でもよい。構文的に二つに分けられるが、「 $S_1$  ナイ-テ、 $S_2$ 。」構文を取るものは前件と後件の述部が対比的(予想される状況に反した事態という意味関係)に解釈され、ナクテ、ナイデ、ズニのどれもが使用可能である。一方、「 $S_1$  ナイ-テ、 $S_2$  ナイ。」構文を取るものは、同じ述部否定に対して題目部分が対比され、ナクテ、ナイデが使える(\*ズニ)。

こうした考察から、日高(1995)はテ形の節用法について、付帯状況では主節のモダリティ的な意味がテ節にも及んだ解釈が可能であるが、因果関係では不可能であること、また付帯状況ではテ節と主節の主語が一致し、その主語はテ節内に入れないのに対し、因果関係では主語はテ節内に入る(ただし主題は入れない)こと、さらに対比では主題もテ節内に入ることを指摘し、こうしたテ形の節用法の分類は、主節に対するテ節の従属度の違いを反映したものであると述べている。

また益岡(1997、67-75頁)はナクテとナイデについて、本来形容詞の範疇に属するテ形の否定形においてナクテは無標であるのに対し、ナイデは動詞の範疇が要求される位置に生起する有標のものだと指摘し、このことの確認のために、テ形接続の従属節と主節の意味的關係からテ形の用法を六つ挙げている。

- 〈1〉単純並列(あの店は安くておいしい。)
- 〈2〉継起(喫茶店で朝食を取って職場に行った。)
- 〈3〉原因(問題が難しくて答えが書けなかった。)
- 〈4〉手段(フェリーに乗って九州へ行った。)
- 〈5〉付帯状況(皆で歌を歌って帰った。)
- 〈6〉条件(そんなに高くしては困る。)

このうち、動詞の範疇が要求される〈2〉、〈4〉、〈5〉はナイデが、他はナクテが使われるという。

ただし動詞の否定形の場合、〈2〉の「継起」は付帯状況や対比の解釈になることが多い。

- (5) a. 喫茶店で朝食を取って職場に行った。(継起)

b. 喫茶店で朝食を取ら { \*なくて／ないで／ず／ずに } 職場に行った。(付帯状況)

(6) a. 昨日は図書館に行って、体育館に行って...(継起)

b. 昨日は図書館に行か { \*なくて／ないで／ず／ずに }, 体育館に行って...(対比)

これらが「継起」と捉えられないことは、次のように説明できるのではないだろうか。

(5)bは、前件が動詞否定表現である場合、前件と後件は継起的な時間の先後関係ではなく、前件の動詞の表す動作が実現されないままの状態と、後件の動作などが同時に生じている関係になる。このため、付帯状況の読みが生じる。(6)bも(5)と同様に、前件の動詞否定形で表された事態が状態的に捉えられるために時間の先後関係が生じず、また前件と後件が同質的な事態として並列されつつも、その一方が否定、一方が肯定で表されることで、両者を比べる視点が生じる。これによって継起ではなく対比と解釈されるのではないか。

なお、小林(2003)はこの分類に「代替」を加える提案をしている。

〈7〉代替(彼女は高校には行かないでカラオケに行っていたようだ)(小林2003、16)

この「代替」は、前件が否定で後件が肯定という構文を取り、前件と後件が同主語でも異主語でもよく、対比的な意味をなす。したがって、日高(1995)の《3》「並列的用法：対比」のうちの「S<sub>1</sub>ナイ-テ、S<sub>2</sub>。」構文のものと同じ用法を指しているといえる。つまり、〈7〉の「代替」は、前件と後件に時間的な関連がない並列用法の中から、前件が否定、後件が肯定となる構文になっているものを取り出したものであり、〈1〉の「単純並列」は残る「S<sub>1</sub>ナイ-テ、S<sub>2</sub>ナイ。」構文のものを指すと言っていいだろう。

これらの意味分類を参考に、本稿では益岡(1997)の〈2〉「継起」を省き、〈1〉、〈3〉～〈6〉に〈7〉対比(日高1995の「《3》並列的用法：対比」の「S<sub>1</sub>ナイ-テ、S<sub>2</sub>。」、小林の「代替」)を加えたものを分析枠として、動詞の否定中止形ナクの意味を考えていく。

(7) 従属節と主節の意味的關係を考えるための分析枠

- ①単純並列(あの人は本も読まず、音楽も聴かない)
- ②原因(子どもがちっとも勉強せず、困っている)(会えないで残念だ)
- ③対比(親が来ないで子どもが来た)
- ④手段(バスに乗らずに目的地へ行った)
- ⑤付帯状況(今朝もご飯を食べないで出かけた)(休まずに働く)
- ⑥条件(しっかりしてくれなくては困る)

全国共通語における、これら①～⑥の動詞否定中止形の使い分けは、おおよそ表2のようになるだろう。

表 2

動詞の否定中止形	①	②	③	④	⑤	⑥
ナクテ	○	○	○	×	×	○
ナイデ	○?	○	○	○	○	○?
ズニ	×	×	○	○	○	×
ズ	○	○	○	○	○	×

○：適格      ×：不適格      ?：やや不自然

### 2-3 動詞否定中止形のスタイルの面での整理

同一の意味や同一の生起環境にあるものを比べると、文体としてズ・ズニは書きことば的、ナクテ・ナイデは話しことば的である（鈴木1976、日高1995にも指摘がある）。これには、インプットの偏りももちろんだが、ズ・ズニが古典語のヌ系列であることが古く伝統的な形式であるとの認識を作り、このことがズ・ズニによる中止節を書きことば的な改まったスタイルのものと認識させているとも考えられる。また動詞肯定中止形の場合に動詞中止形が書きことば的、テ形は話しことば的だと認識されていることも連動しているであろう。

### 3．新しい動詞否定中止形ナク 新聞等での使用状況

ここからは、前章で整理した全国共通語の動詞否定中止形についての情報をベースにしながら、新しい形式である動詞の否定中止形ナクの使用状況を探っていく。

#### 3-1 朝日新聞等での動詞否定中止形ナクの使用状況

先の例(1)～(4)のような新しい動詞の否定中止形は、金澤（1997）の挙げた1955年の朝日新聞の用例が示すように、規範的でない形式とされつつもこれまで全く使われなかったわけではない。

- (8) この時遊撃手捕球後一瞬ためらっている間に二塁走者木村も一挙ホームを衝いたが、このとき本塁上には捕手はいなく木村の快走でこの回二点をあげて優位に立った。（金澤1997、(1)）

試みに朝日新聞社のオンライン記事データベース「聞蔵Ⅱビジュアル」の全文検索方式のデータで金澤（2008）において使用率の増加が大きかった存在動詞「いる」の否定中止形「いなく」、「～ていなく」を検索してみると、<sup>注3</sup>1988年から2012年10月までの記事から153例が見つかった（同一記事を掲載している場合の重複分と、日本語能力に問題がある人物の手紙を引用した記事を除く）。表3のように、毎年1例以上、多い年には14例ほどの用例が拾える。本動詞と補助動詞の別では、1988～1989年の6例はすべて本動詞「いなく」

が使われており、それ以降は本動詞としても補助動詞としてもほぼまんべんなく出現している。

表3 「聞蔵Ⅱ」検索による「いなく、」「～ていなく、」の用例数

1985年	0例	1992年	3*例	1999年	14(5)例	2006年	10(5)例
1986年	0	1993年	3(3)	2000年	12(4)	2007年	7(3)
1987年	0	1994年	1(1)	2001年	8(4)	2008年	6(1)※
1988年	3	1995年	6(5)	2002年	7(4)	2009年	6(1)
1989年	3	1996年	7(6)	2003年	10(3)	2010年	5(4)
1990年	8(4)	1997年	4(2)	2004年	1	2011年	3(1)
1991年	7(3)*	1998年	11(4)	2005年	5(4)*	2012年	3(2)

検索範囲：『朝日新聞』『週刊朝日』『アエラ』、1985～2012年10月分の記事

( )：用例のうち補助動詞の数

※：『週刊朝日』『アエラ』の記事からの用例を1～2例を含む。

「聞蔵Ⅱ」で『朝日新聞』『週刊朝日』『AERA』の記事中の文言について全文検索ができるのは1985年からなので、読点入りの検索ワード「いなく、」では1985～1987年には用例がないことはわかったが、残念ながら1985年以前はどうなっているか分からない。ただ、新聞記事ではないが金澤（1997、2008）が1970～80年代のエッセイや小説の用例も挙げていることから、新聞でもこの期間に例がないわけではなく、おそらく新聞等の文章の中でもわずかながら使い続けられていたと推測できる。

動詞「いる」を否定中止形にする場合は動詞「ある」を取って「おらず」とするのが従来の規範的な形だが、動詞「いる」を取り替えずに活用によって否定中止形を作るという要請のあることが新形「いなく」（および「いず」）を生み出す背景にあると思われる。使用頻度の高さも関わっている。

「いる」以外の動詞の使用状況はというと、状態的な意味を持つ動詞「できる」、「～られる」（可能）などの否定中止形「できなく、」（23例）「～られなく、」（34例）や、肯定形との対応のない固定的な表現「～なければならなく、」（7例）「～わけにもいかなく、」（1例）などが、「いなく、」ほどではないにせよ、少しは存在している。しかし動作動詞の場合、使用頻度の高い「する」（複合動詞含む）でも4例限りであり（「初めて会った感じが全くしなく、」「バツとしなく、」「症状が好転しなく、」「燃烧筒が赤熱しなく、」）「書く」「行く」「言う」「食べる」「走る」「飲む<sup>注4</sup>」などではこうした新しい否定中止形の例は皆無であった。つまり新しい動詞否定中止形ナクは、新聞等の印刷物を見る限りでは、「いる」「できる」「～られる」「～なければならなく」などのかなり限られた動詞句だけに時折使われる形式なのである。

### 3-2 朝日新聞等での「いなく、」「～ていなく、」の特徴

用例数の多い「いなく、」についての考察に戻ろう。全153例のうち、(9)や(10)のように発話の直接引用となっているのは40例、26.1%を占めている。ただしそのほとんどは「」で括られた発話引用の形をとりながら文体は普通体になっている場合が多いことから、話者の話したとおりではなく記者が書きことば的になるよう(もしくは字数を減らすために)普通体に改めていると思われる。記事にする際に、実際に話された形式ではない「～(て)いなく、」が選ばれている可能性がある。

(9) 先制していけるかと思ったが……。うちの投手は真っすぐに走って*いなく*、そこをねらわれた。あとのチャンスにも1本が出なかった。(高校野球のインタビュー記事、朝日新聞、1990年07月20日朝刊、栃木)

(10) 大間原発訴訟の会の竹田とし子代表も閉廷後、「今までの函館の声が全然届いて*いなく*、本当に悔しい。もっと抗議のやり方を考えていなくては。」Jパワーが大間町などに説明に訪れる10月1日に、同町に出向き、抗議活動することを検討している。(朝日新聞、2012年09月29日朝刊(北海道総合)26頁)

このように、用例数の多い「いなく、」「～ていなく、」が発話の引用部分に多く、記事編集時に記者によって選択される可能性のあることは、新しい動詞否定中止形ナクが書きことば的な文体のものと捉えられていることを示唆している。

記事のジャンルという視点から見ると、全用例のうち27例(17.6%)は<sup>(11)(12)</sup>のような火事や交通事故、食中毒などの事件・事故記事で、このうち19例が本動詞「いる」の否定中止形として使われている。また<sup>(13)</sup>のような高校野球などのスポーツ記事も12例(7.8%)あり、うち10例が本動詞用法であった。このような例から、新聞記事では事件・事故記事やスポーツ記事において、ある種の人物(被害者や客、エースなど)が存在しないことをふまえて主節の内容につなぐ構文で「いなく、」が出やすいことがわかる。

(11) 出火当時、原さん以外には人が*いなく*、原さんも無事逃げ出してけが人はいなかった。(朝日新聞、1989年12月05日夕刊、15頁)

(12) 当時、店には客は*いなく*、店員一人だったという。(朝日新聞、1998年11月04日朝刊、静岡)

(13) だが、ずば抜けたスラッガーは*いなく*、切れ目のない打線を持つチームが上位に食い込んだ印象が強い。(朝日新聞、1998年07月28日朝刊、山梨)

また掲載面はほとんどが上述の事件・事故記事の載るいわゆる三面記事欄、スポーツ欄、地方欄(選挙報道も含む)、文化欄<sup>注5</sup>などで、1面～4面あたりの総合、政治、外交等の記事では<sup>(14)(15)</sup>の2例しかない。またどちらも補助動詞としての使用である。新聞の顔である1面～4面の総合、政治、外交、社説など記事に新しい動詞否定中止形がほとんどないということには、存在動詞「(～が)いる」の否定中止形を使うべき箇所の頻度の低さとともに、



補助動詞についていえばこうした記事を担当する記者の文章能力や、こうした記事に対する校正のチェックの厳密さなどが関わっているように思われる。

- (14) 李総統が表明したトップ会談については触れていなく、対話路線を模索しつつも、台湾当局への警戒が続くそうだ。(朝日新聞、1996年05月22日 朝刊、1頁)
- (15) 広告会社の関係者は「そもそも発注の仕様書が実態に即していなく、無理があった」と認める。(朝日新聞、2006年12月14日朝刊、2頁、「時時刻刻」欄の「理念いずこ、官製対話 タウンミーティング最終報告」記事)

#### 4. アンケート調査からわかる動詞否定中止形ナクの使用状況

3. で新聞記事の検索によって、新しい動詞否定中止形ナクが近年急に使われ出したわけではないこと、また新聞等では動詞「いる」「～ている」が多く使われ、動作動詞「書く」などはほぼ使われていないことを確認したが、筆者は経験的に、メールやレポート、あるいは web 上のブログの文章などを見る限り、動詞否定中止形ナクの使用状況は新聞等よりもかなり拡大していると感じている。また、筆者が得ている用例を見るとかなり用法に偏りがあるようにも感じる。そこで、学生へのアンケート調査によって動詞否定中止形ナクの使用状況を捉えてみたい。

##### 4-1 アンケートの概要

アンケートの概要は次の通り。

- ・実施期間：2012年10月5日～26日
- ・対象：神戸女子大学学生（19～20代前半の女性）<sup>注7</sup>72人  
回答者の言語形成地（小中学校時に最も長く住んでいた場所）は西日本がほとんどであり、うち兵庫県内が55.6%を占めている。
- ・配布・回収方法：授業時に質問用紙を配布して記入した後、授業中に回収。（一部、持ち帰っての記入もある）
- ・アンケート方式：すべて複数回答可。第1項目のみ穴埋め式。第2～5項目は候補語形からの選択式で、候補語形を複数挙げ、全ての候補語形について自然な言い方だと思うものに○、おかしい場合は×、分からない場合は？を書くように指示。

アンケート内容は次のように設定した。具体的な質問文や候補語形については、稿末に資料として添付したアンケート用紙を参照されたい。

- ・第1項目：金澤（1997、2008）との比較のための項目  
金澤（1997）と全く同じ質問文7つを穴埋め式で設定。
- ・第2項目：動詞による違いとスタイルによる違いを確認する（第5項目と比較）

従属節と主節の意味関係を単純並列に解釈しやすくし、[1] する、[2] 見る、[3] いる、[4] 言う、[5] 書く、[6] 足りる、[7] できる、[8] わかる、[9] 見ている、[10] 見られる、[11] (予想が) つく、の11の動詞の文を用意。それぞれ普通体にし、やや堅いイメージの語彙を用い、書きことば的な文体に統一。

- ・第3項目：二重否定による義務表現の前部要素のスタイルによる違いを確認する  
二重否定による義務表現「～なくてはならない」、「～ねばならない」の2問。
- ・第4項目：従属節と主節の意味関係の違いによる形式の選択傾向を確認する  
従属節と主節の意味関係を①単純並列、②原因、③対比、④手段、⑤付帯状況、⑥条件の6パターン用意。
- ・第5項目：動詞による違いとスタイルによる違いを確認する(第2項目と比較)  
従属節と主節の意味関係を単純並列に解釈しやすくし、第2項目と同じ11の動詞の文を用意。それぞれ文末に終助詞をつけ、日常会話の話題として自然な語彙を用いて話しことば的な文体に統一。候補語形の中に方言形「せんくて」等も挙げ、文末などは方言形などに適宜変えて考えてよいと指示。

第3項目として取り上げた「しなくてはならず」、「～ねばならなくて、」のような二重否定による義務表現の後部要素については、前部要素のスタイルによって選択傾向が変わる可能性がある点に着目し、調査項目に取り入れた。全国共通語ではこの後部要素にはナクテ、ズが使われ、ナイデとズニが非文になる点で①～⑥と異なっている。

#### 4-2 金澤(1997、2008)のアンケート結果との比較

まず、金澤(1997、2008)と同じ質問文・回答方式を用いた第1項目の結果を見る。質問文は次の(a)～(g)である。

- (a) 最初は何の味も( )、少し不安になったが、次第に本来の味が出てきた。
- (b) この地区には新しい住民はほとんど( )、人々はみな家族同様の付き合いをしている。
- (c) その言語は、構造を簡単に理解することができ( )、習得も難しい。
- (d) 当時は運動の実態もあまり知られて( )、協力する人は少なかった。
- (e) 懸命に頑張ったが、我々の抗議は認められ( )、得点も入らなかった。
- (f) 新しい政府がどのような方針で対処するかは予想もつか( )、不安な気持ちに陥ることも多い。
- (g) コンニャクは包丁で切ら( )、手でちぎった方が、味がよくしみます。

結果は表4に挙げる。この表では動詞否定中止形ナクの回答が多い順に並べ、否定中止形以外の回答(理由や逆接、並列の接続助詞を使ったものなど)は省いている。

表4 第1項目の回答語形と回答数

使用形式	(d)	(b)	(c)	(f)	(e)	(a)	(g)
-ナク	10	4	2	2	1	0	0
-ナクテ	5	8	8	4	1	18	0
-ズ	38	40	39	52	61	35	23
-ズニ	-	-	-	-	-	-	30
-ナイデ	0	0	0	0	0	0	13
形容詞ナク・ナクテ	-	-	-	-	-	7	-

動詞の否定中止形ナクの出現傾向は、(a)に1例も使われなかったことを除けば、概ね金澤(2008)のアンケート結果と同じである。

動詞の否定中止形ナクが最も多く回答されたのは(d)、次いで(b)であった。これらは存在動詞の「いる」や補助動詞の「-ている」の否定形を使いやすい文である。動詞や補助動詞の「いる」「-ている」を否定中止形にする時だけ「おる」に取り替えるという操作をやめて整合性のある「いる」の活用を構築する方向に進もうとすると、従来の規範的な「おらず」は「いず」になってしまうが、この「いず」が現在もまだ規範的なものとして認識されていないことから「いなく」が許容されやすくなったのではないか。また3.で見たとおり、他の動詞の否定中止形に比べて「いなく」は新聞・雑誌、web上のさまざまな文から多くのインプットを受けていることも影響しているだろう。

動詞の否定中止形ナクが全く使われなかったのは(a)と(g)である。(a)は形容詞のナクを入れやすい文であったことや、後続の従属節にかかる文構造であることが影響してナクテが選択されやすかったのだろう。(g)については、金澤(1997、2008、2011)は動詞「切る」が状態性の意味を持たないことを理由に挙げているが、(g)は(a)～(f)と違って、従属節と主節との意味的な関係が①並列や②原因ではなく、④手段(または③対比)と解釈される文であるため、ズニやナイデが選択されやすいことも大きく関与している。

#### 4-3 従属節と主節の意味的な関係によるナクの偏り

動詞否定中止形ナクのさまざまな用例を見ていると、多くの場合、従属節と主節の意味的關係が2-2で整理した6つの分析枠のうち①単純並列や②原因であることに気づく。本稿の冒頭に挙げた例文(1)(2)(3)は①単純並列、また前節の第1項目の(a)～(f)は②原因が①単純並列のどちらかに解釈できる。さらに言えば、ナクが全く出なかった前節の(g)は①②ではなく④手段(または③対比)と解釈される文であったためにナクが使われなかったといえる。全国共通語では④で使えない形式はナクテだけなので、ナクテが使えない場合には否定中止形ナクも使えないと考え、否定中止形ナクはナクテの使える文脈でのみ許容されると見ることもできるだろう。なお、同じくナクテが使えない⑤付帯状

況も同様の傾向がある可能性がある。

アンケートの第4項目は、次のような質問文を用いて、こうした従属節と主節の意味的關係とナクとの適格性判断を求めたものである。質問文の末尾には意味関係の①～⑥のどれに当たるかを示す。以下、アンケートの選択肢としての候補語形は一形式だけを示して他を略す。具体的な候補語形は稿末の資料をご覧ください。また配布したアンケート用紙では質問文番号を(1)～(9)としたが、ここでは他の用例番号とまぎらわしいので(h)～(p)とする。

《第4項目》

- (h) あの人は本も{読まず／他} 音楽も聴かない。 ...①単純並列  
 (i) 子どもがちっとも勉強{せず／他} 困っている。...②原因  
 (j) あの人に{会えなくて／他} 残念だ。 ...②原因  
 (k) バスに{乗らずに／他} 目的地へ行った。 ...④手段  
 (l) 今朝もご飯を{食わずに／他} 出かけた。 ...⑤付帯状況  
 (m) 土日も{休まずに／他} 働く。 ...⑤付帯状況  
 (n) しっかりしてくれ{なくて／他} は困る。 ...⑥条件  
 (o) 虎穴に入ら{ずんば／他} 虎児を得ず。 ...⑥条件(固定的表現)  
 (p) 親が{来ないで／他} 子どもが来た。 ...③対比

結果は表5にまとめる。なお⑥条件に当たる(n)については、助詞「八」に続かない「\*しっかりしてくれなくは困る」や「\*しっかりしてくれずは困る」の回答者を内省能力やアンケートの取組み意欲が低い可能性があるため予め集計から除外したので、ナクとズは0である。また(o)は固定的な表現について意味解釈に合致する形式を選ぶよう指示したものである。

表5 第4項目(従属節と主節の意味的關係)の結果

使用形式	①(h)	②(i)	②(j)	③(p)	④(k)	⑤(l)	⑤(m)	⑥(n)	⑥(o)
-ナク	11	16	11	9	1	0	6	*1	—
-ナク(?)	4	6	5	1	2	1	3	*1	—
-ナクテ	51	61	66	43	7	6	3	71	16
-ナイデ	26	44	53	59	61	60	59	17	8
-ズ	63	68	62	41	46	40	62	*1	*2 67
-ズニ	—	—	—	64	69	71	67	17	13
-ナクバ	—	—	—	—	—	—	—	—	12

※1:(n)でナク・ズに○をつけた回答者が15名いたが、その回答者のデータを集計から除外している。

※2:候補語形は「ずんば」であるが、ズとして集計。

この結果から、動詞否定中止形ナクは①単純並列、②原因、③対比で主に使われるとい

うことが指摘できる(表中で太字ゴシックにした部分)。一方で、④手段、⑤付帯状況はナクが出にくい。このことから、動詞否定中止形ナクには主節に対する中止節の意味関係による制限があるといえる。さらに、ナクが多い①②③はナクても多くなっている。つまり、ナクはナクテが使用可能な意味関係でのみ使われるといえる。このことは、ナクがナクテをベースにして生まれたことを示唆しているのではないが。

#### 4-4 動詞による選択形式の傾向

ここではアンケート調査の第2項目と第5項目の結果を比較して、動詞による使用差があるかを確認する。質問文は、次のようなものであった。

##### 《第2項目》

- [1] 近年は検査も{せず／他}書類さえ提出しない。
- [2] 説明書も{見ず／他}試運転さえしない。
- [3] 支持者が{おらず／他}後援団体さえない。
- [4] 何も{いわず／他}目も合わせない。
- [5] 署名も{書かず／他}捺印もしていない。
- [6] 資金が{足りず／他}寄付も期待できない。
- [7] 机間巡視が{できず／他}板書も汚い。
- [8] 問題点が{わからず／他}観点も不明瞭だ。
- [9] 参考文献を{見ておらず／他}資料も不適切だ。
- [10] 温度変化が{見られず／他}変形もなかった。
- [11] 予想も{つかず／他}問題を感じてもいなかった。

##### 《第5項目》

- [1] おしゃれも{せず／他}髪もボサボサなんだ。
- [2] こっちも{見ず／他}合わせる気なんてないんだ。
- [3] 先生が{おらず／他}鍵もあいてないよ。
- [4] 何も{いわず／他}顔も見ないよ。
- [5] 一枚も{書かず／他}資料も持ってこないんだよ。
- [6] 今月はお金が{足りず／他}アルバイト代も期待できないよ。
- [7] レジの仕事も{できず／他}挨拶もヘタ。
- [8] 何言ってるか{わからず／他}字も汚いなあ。
- [9] そっちを{見ておらず／他}音も聞いてなかったよ。
- [10] その映画が{見られず／他}他のもいいのがなかったよ。
- [11] そんなの、予想も{つかず／他}悪いなんて思ってたかったよ。

第2項目と第5項目における適格(○)の回答数は表6-1、6-2にまとめた。なお、「分

からない」という回答（？や△）は確実に×だと言えないということなので、参考までに否定中止形ナクについての回答のみ「-ナク（？）」として表にあげ、ナクテやナイデなどの？や△は省略している。

表6-1 第2項目（フォーマルな書きことば的文体）の結果

使用形式	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]
-ナク	6	2	25	8	3	32	17	26	20	41	23
-ナク（？）	3	3	4	4	7	3	4	1	4	3	4
-ナクテ	39	28	48	40	34	68	55	57	56	48	62
-ナイデ	<u>34</u>	<u>52</u>	12	<u>52</u>	<u>49</u>	7	16	7	13	25	23
-ズ	71	68	69	69	68	70	66	70	67	69	67

表6-2 第5項目（カジュアルな話しことば的文体）の結果

使用形式	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]
-ナク	4	3	8	7	5	15	13	16	15	10	11
-ナク（？）	1	1	0	0	0	1	2	1	0	1	2
-ナクテ	43	24	39	34	33	41	40	40	41	38	38
-ナイデ	<u>39</u>	<u>39</u>	9	<u>30</u>	<u>34</u>	6	17	5	13	11	12
-ズ	43	34	28	32	31	29	32	38	28	31	31
-ンクテ	52	47	49	50	51	52	52	50	18	45	51

この結果から二つのことが分かる。

一つ目は、金澤（1997、2008）が指摘するとおり、状態性の意味を持つ動詞に動詞否定中止形ナクの使用が偏っていることである。動詞否定中止形ナクを自然だとする回答が多いのは[3]いる、[6]足りる、[7]できる、[8]わかる、[9]見ている、[10]見られる、[11]（予想が）つく、の7つである（表中の数字を太字ゴシックで示している）。これに対して動作性の意味を持つ[1]する、[2]見る、[4]言う、[5]書く、はナクの回答数が少ない。現在のところ、金澤の指摘した状態性の意味を持つ動詞に偏るという使用傾向には変わりがないようである。

もう一点は、ナイデの偏りである。調査文は全て①単純並列の解釈になりやすいように、前件と後件の内容を同質性があるといえるようなものにそろえ、主節の述語も否定形または否定的な意味の語を用いて意外性のニュアンス（③対比の解釈）がないようにしている。こうした文に対する適格性判断は、第2項目の[1]「近年は検査もしないで、書類さえ提出しない。」、第5項目の[1]「おしゃれもしないで、髪もボサボサなんだ。」のように、[1]する、[2]見る、[4]言う、[5]書く、についてはナイデの回答が30以上になるという偏り

をみせた（表中の数字に下線を引いた部分である）。これらの四つの動詞は、否定中止形ナクの回答率が低い動作性の意味の動詞である。

これらのことから、動詞の意味が状態性であればナクを、動作性であれば形容詞などには無い形式ナイデを選好する傾向のあることが指摘できる。

#### 4-5 スタイルによる選択形式の傾向

前節の表6-1、6-2をスタイルの視点から考えてみる。動詞否定中止形ナクが出やすい状態性の意味を持つ動詞に限ると、ナクの回答数は第2項目の方が第5項目よりも2倍以上多い。特に[10]「見られる」、[3]「いる」はその差が顕著で、第2項目が第5項目より3倍以上多くなっている。同様に、ズの回答数も第2項目（表6-1）の方が2倍程度多い。これに対してナクテやナイデの回答数は第2項目と第5項目との間に大きな違いが無い（2倍ほどの差が出たのは[10][11]のナイデのみ）。第5項目にはアンケートの候補語形に-ンクテを加えており、西日本方言話者である回答者はカジュアルな言い方として-ンクテを適格とする人も多いが、このことがナクやズを非文法的と判断する理由になったとは言いがたい。

この結果が示すのは、ナクやズが明らかに書きことば的でフォーマルなスタイルの文である第2項目の方で適格と判断されやすく、話しことば的でカジュアルなスタイルの文である第5項目ではその適格性判断が落ちるということだ。ズは当然としても、ナクがなぜこのようなスタイルの偏りを持つのか。

その背景はどのように考えられないか。形容詞型の否定形式へ一本化される中、ナクテは話しことば的なものであるためにそのままではズの代わりにはならない。そこで形容詞「ない」や形容詞否定形と同じ形式であるナクを書きことば的なフォーマルなスタイルのものとして使うようになっているのではないか。動詞否定中止形ナクの出現は、形態的に見るとズの衰退、形容詞「ない」や形容詞否定形との否定中止形の本化という2つの現象がからみあった体系の要請であるが、このことは同時に、話しことば的なナクテと対応するナクにフォーマルなスタイルの特徴を与えることになったと考えられる。

もう一つ、二重否定による義務表現形式「～なくてはならない」、「～ねばならない」の後部要素の形式選択でも、表6-3のように前部要素の「～なくては」と「～ねば」のようなスタイルの違いによって後部要素「ならない」の部分の否定中止形の出方が変わる。

##### 《第3項目》

[1] 発表もしなくては{ならず／他} レポート提出の義務までである。

[2] 説明会に毎回行かねば{ならず／他} 研修までである。

表6-3 第3項目（二重否定の後部要素）の結果

使用形式	[1]なくては-	[2]ねば-
-ナク	26	33
-ナク( ? )	7	7
-ナクテ	57	55
-ナイデ	3	4
-ズ	65	66

前部要素が書きことば的なスタイルの「-ねば」である時、話しことば的な「-なくては」の場合よりも動詞否定中止形ナクがやや多くなっている。このことから、動詞否定中止形ナクはフォーマルなスタイルにおいて使われやすいということが分かる。

このことは、次に挙げるような筆者自身が得たさまざまな用例にも当てはまる。

- (16) 実は、他の先生の授業で『チョコレートの歴史』についてレポートを書かなくては  
はいけなく、××先生がその本を持っていच्छやということを聞きましたので、  
ぜひともその本をお借りできないでしょうか。(授業の課題、大学1年生。先生へ  
の依頼のメール文を書く練習にて。2009年)
- (17) 今週も先週もゼミに行ってなく、メールもしてなくてすいませんでした。(4回  
生からの筆者宛のメール、2009年)
- (18) メールありがとうございました。お願いもできていなく、申し訳ございません。(職  
員からの筆者宛の仕事上のメール、2011年)

これらは教員(筆者)宛の改まったメール文であり、書き手はフォーマルな文体を意識していると思われる。筆者が得ている用例は書籍や新聞、雑誌、業務用の貼出し以外はこうした作文やメールの例が多いのだが、学生や子どもの友人同士のくだけた会話といったカジュアルなスタイルにおける用例は、今のところ得ていない。このことから、動詞否定中止形ナクがフォーマルスタイルを志向して使われていると言えるのではないだろうか。

## 5. まとめ 動詞否定中止形ナク発生の背景

最後に、動詞の新しい否定中止形ナクはどのような要因によって発生し使われるようになったのか、考えをまとめたい。

まず形態的な要因として、動詞の否定形式は、形容詞「ない」や形容詞否定形と共通する形容詞型の否定形式を持ちながら、中止形にはそれが欠けている。これに従来の規範的形式であるズが衰退の方向に進みつつあることが重なって、否定形式の体系上、動詞の否定中止形にナクが必要とされたと考えられる。



また形容詞「ない」や形容詞否定形に比べて動詞否定形の連用形・中止形・テ形にはバリエーションが多く、ナクテ・ナイデ・ズ・ズニなど複数の否定中止形を従属節と主節の意味的な関係によって使い分けている。そんな中で新しい形である動詞否定中止形ナクはナクテが使われる意味関係において主に使われている。このことは、話しことば的なスタイルのナクテに対応する、書きことば的でフォーマルなスタイルの形式を求めた結果、ズの代わりにナクが選ばれたと解釈できるだろう。

動詞の持つ意味から動詞否定中止形ナクの使用状況を見ると、金澤(1997、2008)の指摘と同様に、主に「いる」「～ている」「できる」「わかる」「見られる」などの状態的な意味を持つ動詞句でナクが多く使われていることがわかった。このことは、これらの動詞の状態的な意味が形容詞の状態性と連続的であることから、形容詞型のナクを許容しやすかったと考えられるだろう。

従来、ズの独擅場であった動詞中止形と、動詞に由来を持つ形容詞カリ活用中止形～カラズのうち、形容詞のカリ活用は既に衰退してナクだけになり、現代の全国共通語を見ると動詞の否定中止形にだけナクが欠け、ぽっかりと空隙として残ったように見える。また動詞でも否定連用形ナクは既に存在している。このことから、何らかの理由さえあれば動詞否定連用形ナクや形容詞否定形などからの類推で、ナクを動詞否定中止形として使うことは体系的に可能であった。形容詞型の否定形に統一されていく流れが出来ると、既にズが担っていた書きことば的なフォーマルな文体を引き継ぐものとして、話しことば的なナクテに対応する動詞否定中止形ナクの登場が許容されたのではないかと。ただし、結果として動詞中止形のバリエーションが増えたため、形容詞型否定形式への一本化の流れの途中で、今後は過渡的に意味的・文体的な使い分けが複雑になる可能性があるかもしれない。

#### 【注】

注1 古典語の「ぬ」系統の否定形式の終止連体形やテ形は、西日本諸方言であれば「行かん」、「行かんで」、「行かずや」のように用いられるが、全国共通語としては許容されないと考えている。このうち終止連体形は、老人語や威張ったキャラクターのこことば(役割語)としてなら全国共通語でも許容されるかもしれないが、ここでは焦点を拡散させないために省いた。

注2 ナイデの出自や語源はまだ詳らかでないようである。『日本国語大辞典』(第二版、小学館)を見ると、ナイデは既に『雑兵物語』に用例が見えることから、ナクテよりも古い形式である可能性もあるという。ナイにデが付いたものか、「行かいで」などから成ったものか。このように考えるとナイデをテ形とすることにも疑問が残るが、本稿では形容詞「ない」や形容詞否定形にこのナイデがないことを示せばよいので、ここでは寺村(1981)に従ってテ形としておく。

注3 「いなくなる」、「悔いなく戦う」のような正用の連用形（補助用言用法のもの）を除外するため、検索ワードに読点を入れている。

注4 動作動詞「見る」は1例だけ「見なく、」の用例があったが、児童の作文である。

注5 特に寄席についての記事4例中、「(客が)だれもいなく、壁に向かって(話す)」の表現パターンをとるものが3例あり、定型化しているように見える。

注6 ブログには、プロの校正・校閲が入らない、素人の自由な文章が膨大にある。日々更新・削除があり再現性に欠けるが、そこで得られる用例は圧倒的である。そこでブログ検索でこの動詞否定中止形ナクの傾向を確認すると、次のように大量の用例が見つかる（意味の違いがあるのでナイド形を外して検索）

・使用した検索エンジン：goo（<http://www.goo.ne.jp/>）

・検索日：20012年9月27日16:00～16:30頃

(i) 状態動詞「いる」の否定中止形（補助動詞用法含む）

「いなく、」 約 19,000件

「いなくて、」 約 78,000件

「いず、」 約 5,000件

「おらず、」 約 170,000件

(ii) 動作動詞「食べる」の否定中止形

「食べなく、」 91件

「食べなくて、」 約 2,000件

「食べず、」 約 12,000件

(iii) 動作動詞「する」の否定中止形

「しなく、」 約 1,000件

「しなくて、」 約 11,000件

「せず、」 約 250,000件

(iv) 動作動詞「言う（／いう／ゆう）」の否定中止形（補助動詞用法含む）

「言わなく、」 49件（うち「いわなく、」4件、「ゆわなく、」0件）

「言わなくて、」 902件（うち「いわなくて、」53件、「ゆわなくて、」6件）

「言わず、」 35,055件（うち「いわず、」約4000件、「ゆわず、」55件）

このようにブログでは動作動詞「食べる」「する」「言う」などの用例が拾えるが、それぞれの全用例数に対する動詞否定中止形ナクの割合は「いなく、」が6.9%であるのに比べ、「食べなく、」は0.6%、「しなく、」は0.3%、「言わなく、」は0.1%と、「いる」よりはるかに少ない。ブログの世界も新聞等と同様に、「いる」などの限られた動詞の使用率が高い状況には違いがないが、他の動詞の用例がある点で、やはり変化の進度は速いようである。

ただしブログ検索には、日本語非母語話者の誤用か、機械翻訳かは定かではないが、日本語として不自然な例が混ざっている点に注意が必要である。(v)は「しなく、」の不自然な例のうち、「オリーブの馬提尼」「小黑裙」等を使用する書き手の例である。

(v) まるで片手に彼女の肩の上で、彼女は振り返って、発見は会社の総裁。彼女は目を丸くしなく、心狂い跳んで、しばらくはさける。

<http://ameblo.jp/vohburand/entry-11365053739.html> (2012年9月27日閲覧)

注7 87人から回答を得たが、留学生1名と、質問のうち第4項目の[7]「しっかりしてくれ{なくて/他}は困る」でナクやズを選択したり、[8]「虎穴に入ら{ずんば/他}虎児を得ず」で無回答だった15人は、内省能力(またはアンケートへの取組み意欲)と言語知識の点から回答者として不適切とみなし、分析対象から外した。

### 【参考文献】

金澤裕之(1997)「〈研究ノート〉助動詞『ない』の運用中止法について」、国立国語研究所編『日本語科学』1、国書刊行会

(2008)『留学生の日本語は、未来の日本語 日本語の変化のダイナミズム』ひつじ書房

(2011)「時代を超えた言語変化の特性 動態の普遍性を考える」、金澤裕之、矢島正浩編『近世語研究のパースペクティブ 言語文化をどう捉えるか』笠間書院  
グループ・ジャマシイ(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版

小林典子(2003)「『なく(て)』と『ないで』と『ず(に)』について 言語研究と日本語教育」、『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第18号

鈴木英夫(1976)「『なく(て)』と『ないで』と『ず(に)』の用法の異同について」『名古屋大学教養部紀要A(人文科学・社会科学)』第20号

寺村秀夫(1981)『日本語の文法(下)』国立国語研究所

(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版

仁田義雄(1995)「シテ形接続をめぐって」仁田義雄編『複文の研究(上)』くろしお出版

日高水穂(1995)「ナイドとナクテとズニ テ形の用法を持つ動詞の否定表現」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版

宮地敦子(1964)「ない・ぬ、ず」時枝誠記他監修『口語文法講座3 ゆれている文法』明治書院

### 【付記】

本稿は、科学研究費補助金 基盤研究(B)「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」(課題番号21320086、研究代表者:日高水穂)による研究成果の一部である。

## 【資料】

## 練習用 アンケート

2012年10月5日

次の文が自然な表現になるように、( ) にことばを書き入れて下さい。

1 .

- (a) 最初は何の味も( ) 少し不安になったが、次第に本来の味が出てきた。
- (b) この地区には新しい住民はほとんど( ) 人々はみな家族同様の付き合いをしている。
- (c) その言語は、構造を簡単に理解することができ( ) 習得も難しい。
- (d) 当時は運動の実態もあまり知られて( ) 協力する人は少なかった。
- (e) 懸命に頑張ったが、我々の抗議は認められ( ) 得点も入らなかった。
- (f) 新しい政府がどのような方針で対処するかは予想もつか( ) 不安な気持ちに陥ることも多い。
- (g) コンニャクは包丁で切ら( ) 手でちぎった方が、味がよくしみます。

次の{ }の中のそれぞれの言い方について、自然な言い方だと思う場合は○を、おかしい場合は×を、分からない場合は？を書いて下さい。

2 .

- (1) 近年は検査も{しなく／しなくて／しないで／せず} 書類さえ提出しない。
- (2) 説明書も{見なく／見なくて／見ないで／見ず} 試運転さえしない。
- (3) 支持者が{いなく／いなくて／いないで／いず／おらず} 後援団体さえない。
- (4) 何も{いわなく／いわなくて／いわないで／いわず} 目も合わせない。
- (5) 署名も{書かなく／書かなくて／書かないで／書かず} 捺印もしていない。
- (6) 資金が{足りなく／足りなくて／足りないで／足りず} 寄付も期待できない。
- (7) 机間巡視が{できなく／できなくて／できないで／できず} 板書も汚い。
- (8) 問題点が{わからなく／わからなくて／わからないで／わからず} 観点も不明瞭だ。
- (9) 参考文献を{見ていなく／見ていなくて／見ていないで／見ていず／見ておらず} 資料も不適切だ。
- (10) 温度変化が{見られなく／見られなくて／見られないで／見られず} 変形もなかった。
- (11) 予想も{つかなく／つかなくて／つかないで／つかず} 問題を感じてもいなかった。

3 .

- (1) 発表もしなくては{ならなく／ならなくて／ならないで／ならず／ならずに} レポート提出の義務までである。
- (2) 説明会に毎回行かねば{ならなく／ならなくて／ならないで／ならず／ならずに}

研修まである。

4 .

- (1) あの人は本も { 読まなく / 読まなくて / 読まないで / 読まず } 音楽も聴かない。
- (2) 子どもがちっとも勉強 { しなく / しなくて / ししないで / せず } 困っている。
- (3) あの人に { 会えなく / 会えなくて / 会えないで / 会えず } 残念だ。
- (4) バスに { 乗らなく / 乗らなくて / 乗らないで / 乗らず / 乗らずに } 目的地へ行った。
- (5) 今朝もご飯を { 食べなく / 食べなくて / 食べないで / 食べず / 食べずに } 出かけた。
- (6) 土日も { 休まなく / 休まなくて / 休まないで / 休まず / 休まずに } 働く。
- (7) しっかりしてくれ { なく / ないで / なくて / ず / ずに } は困る。
- (8) 虎穴に入ら { なくば / ないでは / なくては / ずんば / ずには } 虎児を得ず。
- (9) 親が { 来なく / 来なくて / 来ないで / 来ず / 来ずに } 子どもが来た。

5 .

- (1) おしゃれも { しなく / しなくて / ししないで / せず / せんくて / せんく } 髪もボサボサなんだ。
- (2) こっちも { 見なく / 見なくて / 見ないで / 見ず / 見んくて / 見んく } 合わせる気なんてないんだ。
- (3) 先生が { いなく / いなくて / いしないで / いず / おらず / おらんくて / おらへんくて / おらんく / おらへんく } 鍵もあいてないよ。
- (4) 何も { いわなく / いわなくて / いわないで / いわず / いわんくて / いわんく } 顔も見えないよ。
- (5) 一枚も { 書かなく / 書かなくて / 書かないで / 書かず / 書かんくて / 書かんく } 資料も持ってこないんだよ。
- (6) 今月はお金が { 足りなく / 足りなくて / 足りないで / 足りず / 足りんくて / 足りんく } アルバイト代も期待できないよ。
- (7) レジの仕事も { できなく / できなくて / できないで / できず / できんくて / できんく } 挨拶もヘタ。
- (8) 何言ってるか { わからなく / わからなくて / わからないで / わからず / わからんくて / わからんく } 字も汚いなあ。
- (9) そっちを { 見ていなく / 見ていなくて / 見ていないで / 見ていず / 見ていんくて / 見ていんく / 見ておらず / 見ておらんくて / 見ておらんく } 音も聞いてなかったよ。
- (10) その映画が { 見られなく / 見られなくて / 見られないで / 見られず / 見られんくて / 見られんく } 他のもいいのがなかったよ。
- (11) そんなの、予想も { つかなく / つかなくて / つかないで / つかず / つかんくて / つかんく } 悪いなんて思ってたかったよ。